

道写協

北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内
 011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)
<http://www.dosyakyou.org/>

第128号

支部長会議(総会)報告

5月17日(日)午前9時30分、北海道新聞社会議室において、平成27年度支部長会議が開催されました。会議には全道から23支部長が参加され、武藤省吾会長より挨拶と写真道展の要項改正役員改選について述べられました。引き続き北海道新聞社事業センター・事業委員の若林直樹氏より、支部活動に対するお礼と今後の支部の活性化の期待を含めた挨拶がありました。その後、支部長及び役員の自己紹介が行われ、議長に奈井江支部の田澤康史支部長が選出され議事に入りました。

一、事業報告

①各委員会、会議報告(大平事務局長)

写真協会関係の委員会は、役員会6回、企画委員会4回開かれました。特に作品集値上げ、写真道展要項改正、役員選考委員会の開催等が審議の中心でした。第62回写真道展審査委員長に駒井千恵子氏(浦河)、第33回学生写真道展審査委員長に経塚剛敏氏(札幌)、招聘審査員に小松ひとみ氏(秋田県)、岸本日出雄氏(札幌)。写真道展関係(山下実行委員長)は、定例に行われる年4回の実行委員会、進行係、審査係会議と第62回写真道展審査委員会の開催と審議内容が報告されました。

②第62回写真道展の報告

山下智・写真道展実行委員長
 公募出品数は5,653点、出品者447名と若干前回を下回ったが、5年連続5千台の応募数が維持され、入選率4.8%で依然として難関は変わりありません。学生写真道展は、1,214点と過去最高の応募点数です。本年度は写真道展の要項改正の検討会を8回開催し案件作成をしました。

③事業報告(大平事務局長)

写真道展巡回展は札幌・入館者2,460名を皮切りに全道13会場で開催。道写協会報125号と127号の3回発行。審査委員の派遣5支部、年度賞盾の授与11支部から要請がありました。学生写真道展の広報活動は千歳高校の協力のもと札幌会場で実行委員が対応。第33回学生写真道展展覧会、表彰式は3月下旬に盛大に終了しました。支部例会コンテストは11支部、70名166点の出品で、支部賞、1位札幌、2位三笠、室蘭、個人賞1位から3位と入選が決まり、支部長会議終了後表彰授与がされました。

二、決算報告(瀧野、阿部会務委員)

会員の減少傾向が続いていますが、各支部の努力で新入会員32名と減少数が減少に止まっています。昨年指摘のあった支出項目の内訳欄をより詳細に掲載。写真道展への援助金として25万円人件費として計上。中野芳生監査委員

より適正かつ正確に処理されている旨報告されました。

三、事業計画(案)(大平事務局長)

第62回写真道展(札幌)は道新ぎやらりーDOBOXにて開催。以後全道13会場を巡回。審査委員支部派遣(旅費)、支部年度賞は継続実施。第3回支部例会フォトコンテストの実施、11月締切、表彰内容は前回同様。第63回写真道展、第34回学生写真道展の応募受付は、平成28年2月1日～10日、審査は同年2月27日～28日行います。

四、会計予算案(瀧野、阿部会務委員)

①収入は、現道写協会員数を維持し新入会員数25名を想定し361名としました。前年度からの繰越金の減少、会員増員が認められない状況では、支出内容の検討が急務。

②写真道展中間報告(坪川実行委員)

収入及び支出について順調に処理されています。今後は未払い経費の精算を行い8月今年度の決算が終了します。

五、写真道展審査委員会友の承認

- ・審査会員承認(1名)田中明子(岩見沢)
- ・会友承認(5名)高橋省三(小樽)、山崎正義(岩見沢)、千葉弘子(釧路)、大里清志(釧路)阿部三重子(旭川)

六、支部会友の退会

- ・追分支部廃部・会友退会▽佐々木義道(苫小牧) 沖義教(芦別) 関本民一(帯広) 中山富雄(中標津)

七、写真道展巡回日程(福田会務委員)

全道各地で順次巡回展開催の予定。会場によつては搬出、搬入の日程に余裕がない処があるので、連絡を密に対処してほしい。

八、北海道写真協会役員改選

本年度は役員改選を迎え永年役員として、またこの2年間は会長として道写協の発展・向上、また活性化にご尽力頂きました武藤省吾会長が勇退されました。今後は顧問として道写協の活動を見守って頂ける事になりました。役員選考委員の若林直樹氏より新会長には本郷正利氏(小樽)を推薦する報告があり、新役員体制が承認されました。

■新役員体制

- 顧問 ■松田敏一、山崎隆志、武藤省吾
- 会長 ■本郷正利
- 副会長 ■中野潤子、森 哲
- 会務委員 ■瀧野邦保、阿部悦子、福田光男、山下 智、中野芳生、坪川輝子、山本隆辰、
- 事務局長 ■大平博雄
- 事務局次長 ■福島恵里・事務局 ■秋庭彰徳
- 監査委員 ■川原静雄、西澤 実

九、写真道展要項の改正(中野副会長)

昨年の支部長会議で写真道展実行委員会要項の改正の検討を行う旨、報告。会報126号にて経過報告と大きな改正点を掲載しました。

今回は改正点を説明し、出席支部長から確認を頂き、承認されました。

平成27年度議案全般に亘り提案し、参加者全会一致で承認されました。各支部長からは貴重な意見を多数頂き、今後の方針の参考にさせて頂きます。最後に武藤前会長からこれまでの写真道展との関わり、これからの写真道展の益々の発展と向上を期待する言葉を頂き、出席者一同、これまでの労をねぎらい盛大な拍手でお礼に代えさせて頂きました。

田澤議長退任挨拶で支部長会議は終了致しました。支部長会議(総会)がスムーズに滞りなく進行されたことに感謝申し上げます。(文責・森 哲)

北海道写真協会 会長就任御挨拶

本郷 正利



5月の支部長会議で、会長に承認され、改めて責任の重さに身のしき締まる思いです。

これまで、昭和56年小樽支部幹事長、平成4年支部長と約20年近く支部を中心として写真活動をしてきました。

平成10年、故橋本博先生、武藤前会長のお話があり、会計、総務など各支部の方々の協力をえて活動してまいりました。

この期間に得た経験から、道写協では支部活動を基本とした運営が大切であると考えています。これからもご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

■支部の活性化

写真協会の支部数は2000年時から6支部減つて31支部となり、会員5名以下の支部は13支部もあります。

審査会員・会友・道写協会員の総数は452名で、15年前の750名から40%298名減となっています。

このような推移傾向で進めば協会の存在が危ぶまれる状況になると言えます。

一昨年より支部活性化を目指して「支部例

会フォトコンテスト」を実施し、支部活動の覚醒を目指していますが、より多くの支部が参加し切磋琢磨することが必要です。

協会としては、支部と地域の実情を把握しつつ、支部活性化のための全面的な協力体制をとると共に、新支部結成の動きがあれば、情報を頂きあらゆる支援をしていきたいと思っています。

また、デジタル写真の普及は写真愛好家だけでなく、一般家庭にも普及してきており、写真の裾野が広がりを見せています。

この動向を各地域の支部が受け皿となり、支部活動に連動させていくことが必要と思います。

■写真道展の充実

写真道展は第62回展を終えましたが、部門違いの応募や、類似作品の応募が見受けられました。

第2部の観光・産業部門の作品が、第1部、第3部へ混入しているのが目立ちました。この整理が急がれます。

また、類似作品、二重応募の明確なルールの確立を図り、わかり易い写真道展のアピールに努めていきます。

最後に、写真協会と写真道展の充実化に向けて、審査会員との意見交流の場を設けて、役員だけでなく審査会員・会友も含めた活動を進めていきます。

アマチュア写真団体として「仲良く、楽しく」をモットーとし、息長く活動できる組織を目指します。

どうぞよろしくお願いいたします。

随想＝私の一枚
〈シリーズ59〉
審査会員 藤井 恵子
「灰色の思い出」

私がまだ若かった頃、画家に憧れたことがあった。

師の小野垣哲之助先生は、岩内町出身の木田金次郎画伯を敬愛され、独特の灰色を基調とされた、「陸揚げされた廃船」等は特に好まれ、私にも、どの絵にも灰色ばかりで塗りつぶす手法を促していた。

ところが私はあるとき突然破門され、泣きながら円山の坂道を重い画版を下げて帰った暗い思い出がある。

その後数年して趣味の写真に傾いていた。ある日道庁の池の前に佇んでいると突然に雨模様となり、池は二面灰色となった。急に当時の灰色を連想し、夢中でシャッターを切った。池に写った道旗もかすかに揺れ、まるで名画を見ているようだった。フィルムを現像し上下を反転し「赤レンガ」とタイトルをつけ道展に出品した。

これが初めての道展三席となり、飛び上がる程嬉しい思いで受賞式に臨んだ。

(註・平成2年・第37回写真道展 第2部(観光)3席)

新審査委員会会友の紹介

道写協の発展を願って



田中明子 (岩見沢)

このたびは審査委員会に推薦頂き、本当に身の引き締まる思いです。写真の魅力を知って20年経ちました。スタートは道新文化センターの写真教室です。素晴らしい先生との出会いもあり感動と挫折の繰り返しでした。けれど、それが私の人生を、彩ってくれたものと思います。これからはもっと、自分の感性を磨き、自分自身の写真の向上と道写協の発展の為に、微力ですが、歩いてゆくことを決意しています。

新会友は5名



- 右から
- 田中 明子 審査委員
- 新会友
- 高橋 省三 小樽
- 山崎 正義 岩見沢
- 千葉 弘子 釧路
- 大里 清志 釧路
- 阿部三重子 旭川

支部探訪ー余市

顧問 金子 勝彦

■余市は良い地

創設は平成8年ですから、20年の成人を迎える余市支部です。



余市ローソク岩 金子 勝彦写真集から

札幌をはじめ道央圏の皆さんも良く撮影に訪れる余市は、昨年マッサンブームで大賑わいでした。ニッカの工場は、撮影ツアーで訪れる方も大勢で、今年になつてもまだ途絶えません。海もまた風光明媚な場所が多く、カメラマンはそれぞれ絶好の場所を探すのに懸命です。まさに余市は良い地です。

■支部の活動

現在の会員数は11名、毎月第三土曜日に例会を開いています。

今年7月8日〜11日迄中央公民館で50作品以上展示の「余市支部展」を開催し多くのお客様にご覧いただきました。

毎年近郊の積丹のカメラ仲間と往来し、交

流を図ったり、道新夕刊に支部会員の作品が紹介される等、いくつか楽しみなこともあり。心配は他支部同様ですが、会員数の減少と高齢化です。道写協全体の問題として、考えていかななくてはならないことかと思ひます。

■名所 ローソク岩の撮影

私事になりますが、私は長年ローソク岩を撮り続けて写真集にしています。

地元に住るので、冬でも悪天候の時でもさまざまな光景に接することが出来ます。

道写協の仲間にお教えします。

ローソク岩の先端に古平側から昇る太陽が灯りをとすのは、5月であれば朝3時、この瞬間を指す客は本州からもたくさんです。天気予報と相談の上、どうぞお出かけください。



余市支部の会員達 右端が金子さん

「支部例会作品」コンテスト

例会の充実活性化を願って

支部活動の基本である例会の活性化と写真技術の向上を促す「支部例会フォトコンテスト」が今年も実施されています。

各支部の例会開催がより数多く、かつ内容の充実が図られることを願って、支部活動奨励のために一昨年から行われています。

- ・対象 各例会1〜3位入賞作品(上位3点)
- ・応募期間 5〜11月例会作品
- ・応募締切 11月30日(厳守)
- ・道写協会員に限りません。会友は例会参加は自由ですが、作品は応募出来ません。
- ・入賞作品は道展に応募出来ます。
- ・個人表彰 1席1点(1万円)2席2点各5千円)3席3点(各3千円)入選4点
- ・支部表彰1位(2万円)2位(1万円)3位(5千円)

写真展 案内



喜寿記念 大崎和男 個展 画家・造形家 「七つの秘密」 写真・絵画・造形等7部門の作品展示 8/20(木)〜9/2(木)ー新得町公民館

写真展開催の方お知らせください

日程が会報発行時期と合えばPR出来ます。

編集担当/山本:(011)386・6322

